

二〇二二年四月二日

新品の靴に靴べらさして春
ゴスペルの洩れくる街路飛花落花
肩ぶつけあひつつ二人桜坂
御成婚記念の並木花万朶
ゴンドラの揺れに悲鳴や山笑ふ
茶摘み女の姉さん被り女学生
石舞台二上背なに花の宴
路の花野太く咲きぬ古墳道

豊実 凡士 素秀 たく子 たか子 智恵子 明日香 なつき

二〇二二年四月一日

花吹雪あびつ川沿ひ車椅子
壺焼きの潮噴き出す浜通り
引き潮に乗り海原へ花筏
山襷に霞の如し山桜
ベレー帽少しあみだに桜狩
沼鏡して天蓋の山桜
春霖や煉瓦アーチの水路閣

やよい 凡士 智恵子 素秀 ぽんこ 素秀 もとこ

二〇二二年三月三二日

山桜腹に値札の陶狸
コロナ禍の花見はテレビ機敷にて
山消えて夕日黄砂の中に落つ
古煉瓦隧道出れば花の雨
朝一番花屑を掃く禰宜若し
春潮や砂浜広き頃恋し

なつき せいじ 素秀 こそす 明日香 うつぎ

二〇二二年三月三〇日

青空をセピアに染めて黄砂降る
見送られ社屋に一礼風は春
移りゆく車窓は花の万華鏡
花ふぶき総身に浴びてマリア像

智恵子 豊実 せいじ はく子

二〇二二年三月二九日

堂縁に並び春詠む吟行子
お散歩カー並び保育所うらけし
燕来る島に移住の一家あり
自転車の立こぎ突入花吹雪
反転の跡くつきりと耕運機
押し上げむ桜の丘へ車椅子
声変わりして卒業す面砲顔

たか子 むべ 凡士 そうけい うつき あひる みきお

二〇二二年三月二八日

迷ひたる跡ありありと蝮の道
山門を額縁として大桜
花の雨けふは介護の休息日
山桜能勢の吉野と言ひつべし
堂裏の水路嵩なす落椿
一族の墓に大小彼岸寺
水路閣古色煉瓦に花明かり
欠け鉢に目高飼ひるる骨董屋
木の芽晴試歩の一步の松葉杖

宏虎 明日香 やよい うつき たか子 素秀 たか子 なつき みきお

二〇二二年三月二七日

雨もよしインクラインの青き踏む
金閣の影ゆらぎをる花の雨
桜降る装具の足をまた一步
道化師のパントマイムや花の下
花陰にひろぐ弁当車椅子
切れ長の遠まなざしや古雛
水路閣合はせ鏡に朧なる

ぼんこ 凡士 凡士 凡士 やよい なつき 明日香

毎日句会みのる選・二〇二二年四月四日